

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした長期的研修】

受託団体名 SIL 札幌日本語学校

1. 事業の趣旨・目的

道内在住の外国人に対して、生活者としての目線を通じて、緊急時の日本語やその情報をより容易に指導するための実践的なスキル研鑽を目指す。

具体的には、緊急時（急病・事故、火事、地震、避難など）の対処、生活を取り巻く諸問題（育児、教育、ごみなど）に焦点を当て、必要な情報を考えていく。

外国人への情報伝達の場面を想定して、いかに分かり易く、効果的に理解させられるかを、実践的且つ参加者が相互に学べるようにワークショップ形式とした。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月23日 (土) 15:00～17:00	SIL 札幌日本語学校	島治美 外山静江 鈴木博子 Petia 佐々木 木本みゆき	・講座開講の方針 ・募集方法、日程、周知方法について ・募集チラシ作成	講座方針の確認、後援者の選定、日程や内容の検討確認、周知方法について前年度を参考にし、話し合う。募集チラシの構成、文面について検討し、配布のしかたや配布分量についても意見を出し合う。
7月27日 (水) 16:30～18:30	SIL 札幌日本語学校	島治美 外山静江 鈴木博子 Petia 佐々木 木本みゆき	・講座内容について ・経過報告 ・講座準備手順について ・外部有識者講演依頼について	講座内容について回ごとに詳しく検討した。 経過報告があり、開講までの作業項目の洗い出し、それぞれの役割分担などを検討。 また、外部有識者への講演依頼とその内容について話し合い合意を得た。
8月29日 (月) 13:00～16:00	SIL 札幌日本語学校	島治美 外山静江 鈴木博子 Petia 佐々木	・募集経過、会場確保について ・講座の予定について	参加者募集、会場設定、講演依頼の経過報告があり、それを基に周知方法などを再検討した。また、模擬実習の回数や具体的な手

		木本みゆき	・模擬実習の設定回数、内容の検討	順、指導留意事項などを検討した。
10月7日(土) 16:00～17:30	SIL 札幌日本語学校	島治美 外山静江 Petia 佐々木 林真知子 木本みゆき	講座途中経過報告 模擬実習について	講座経過報告を受け、今後の内容について再度検討し、改善点などを考えた。模擬実習の内容や手順の確認、受講生のレベルに合致したものであるかどうかを話し合う。

【写真】



3. 養成講座の内容について

- (1) 講座名： 日本語ボランティアのための実践的研修「こんなときどうしますか」
- (2) 開催場所： 札幌市民ホール かでる2. 7
- (3) 学習目標： 外国人にどのような方法で緊急時の対処法、及び情報を教えられるか
- (4) 使用した教材・リソース：
当校が作成した『ボランティアのためのハンドブック』『みんなの日本語』、札幌市配布のごみ分別パンフレット、災害マップなど
- (5) 受講者の募集方法：
道内各市町村へ募集要項を配布し、市内公共施設にチラシを置いた。市内、札幌近郊各大学国際交流センター、市内、道内日本語ボランティアグループ、市内日本語教師養成講座担当者へも持参、もしくは郵送し、ネットでの送信、配布を行った。
- (6) 受講者の総数： 8人 (出身・国籍別内訳：日本8人)
- (7) 開催時間数(回数)： 36 時間 (全 12 回)
- (8) 参加対象者の要件： 日本語ボランティアとしての活動歴二年以上

(9) 講座内容

回	開催日時	時間数	受講者数	講座名／学習内容	講師
①	9月17日 9:00-12:00	3時間	6人	①やさしい日本語について ②「日本の災害を見て」 ③外国人生活者に聞く ④講演「災害に備えて」	木本みゆき ラウ・メイ氏 防災協会 防災・危機管理専門官細川雅彦氏
②	9月24日 9:00-12:00	3時間	5人	①「外国人教師による外国語の体験授業」 ②フィードバック (自己紹介含む)	北海道大学工学部客員教員 ペティア佐々木氏 島治美
③	10月1日 9:00-12:00	3時間	4人	①救急医療の言葉について「くらしのガイド」をもとに考える ②講演「札幌における国際交流事情と緊急時の取り組みについて」後藤道氏・松本知佳氏	木本みゆき (公財)札幌国際プラザ 後藤道氏・松本知佳氏
④	10月8日 9:00-12:00	3時間	4人	地震の時の言葉についてアナウンス例をもとに考える	木本みゆき
⑤	10月15日 9:00-12:00	3時間	3人	・ゴミのルール、言葉について考える ・模擬実習について	島治美
⑥	10月22日 9:00-12:00	3時間	4人	・緊急の場合に必要な構文について ・模擬実習のためのモデル授業 ・紛失時における表現について考える	島治美
⑦	11月5日 9:00-12:00	3時間	1人	①次回模擬実習(「紛失」)の教案について考える ②講演「事故と犯罪について」市村比沙子氏	島治美 札幌中央警察署 生活安全課 巡查部長 市村比沙子氏
⑧	11月12日	3時間	1人	・受講生による模擬実習(「紛失」)	木本みゆき

	13:00-16:00			・フィードバック	
⑨	11月19日 9:00-12:00	3時間	2人	・病院の言葉・病気表現について 問診票をもとに考える ・次回模擬実習について	木本みゆき
⑩	11月26日 9:00-12:00	3時間	2人	・不在通知をもとに情報の伝え方を考える ・受講生による模擬実習（「地震時の情報」） ・フィードバック	島治美
⑪	12月3日 9:00-12:00	3時間	2人	学校のお知らせをもとに情報の伝え方を考える	木本みゆき
⑫	12月11日 9:00-12:00	3時間	4人	・受講生による模擬実習（「ゴミ問題」） ・フィードバック ・外国人と話す際のコツについて	島治美

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

- * 日時、回数、開催場所: おおむね満足との回答が多かった。
- * ワークショップ形式の講座について: 他の人の意見を聞き、いろいろな角度から考えることができ、よかった。
- * 講演など: ほとんどが満足、やや満足であった。
- * 講座内容: 実習の回数が多かったことがよかった。外国人への接し方を学ぶことができた。

② 実施主体からの研修内容結果評価

ボランティアの経験者ということで、外国人に接する機会が多いが、その団体の中だけでの限られた活動範囲で考えてしまう傾向があり、外国人学習者の国籍、職業、年齢などの背景や学習環境が変わると対応できない。そのようなボランティアの方々に視野を広げてもらえる良い機会になったと思われる。東日本大震災の発生により、講座内容がより重く受け止められることとなり、外国人が知っていなければならぬ情報をわかりやすく教える日本語ボランティアの役割の大切さを理解してもらえた。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

緊急時の日本語という講座内容に関心を持ち、札幌以外の都市からも問い合わせを受けることもあるので、今後も講座を続けていきたい。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

市内他ボランティア団体との関わりを持つことで、それぞれの特色を認識できた。それぞれの団体のメンバーも、他団体と連携していくメリットを感じるきっかけとなったようである。

② 研修後の人材活用

すでに、それぞれのボランティア団体において活躍している人もおり、さらに自己研鑽を図りたいという、次年度の講座への参加希望者もいる。

(12) 今後の課題

参加者募集時に、精一杯手は尽くしてはみたものの、ちょうど夏休みの時期で、ボランティア団体も活動休止の時期に重なったため、周知徹底がなかなかできなかった。会場確保が半年前の抽選のため、開講期間、日程が開催者側の希望の通りにならないということもある。

しかし、講座開始後に受講者の口コミで参加する受講者が数名いた。開講後も講座に興味を持ちながらも各自の不都合で参加できないという人も数人出てしまった。大災害が数多く発生する昨今において、本講座内容は時機を得ている内容であり、自信を持って薦められるものである。次年度に向けて一人でも多くの人に講座に参加してもらえよう努力したい。